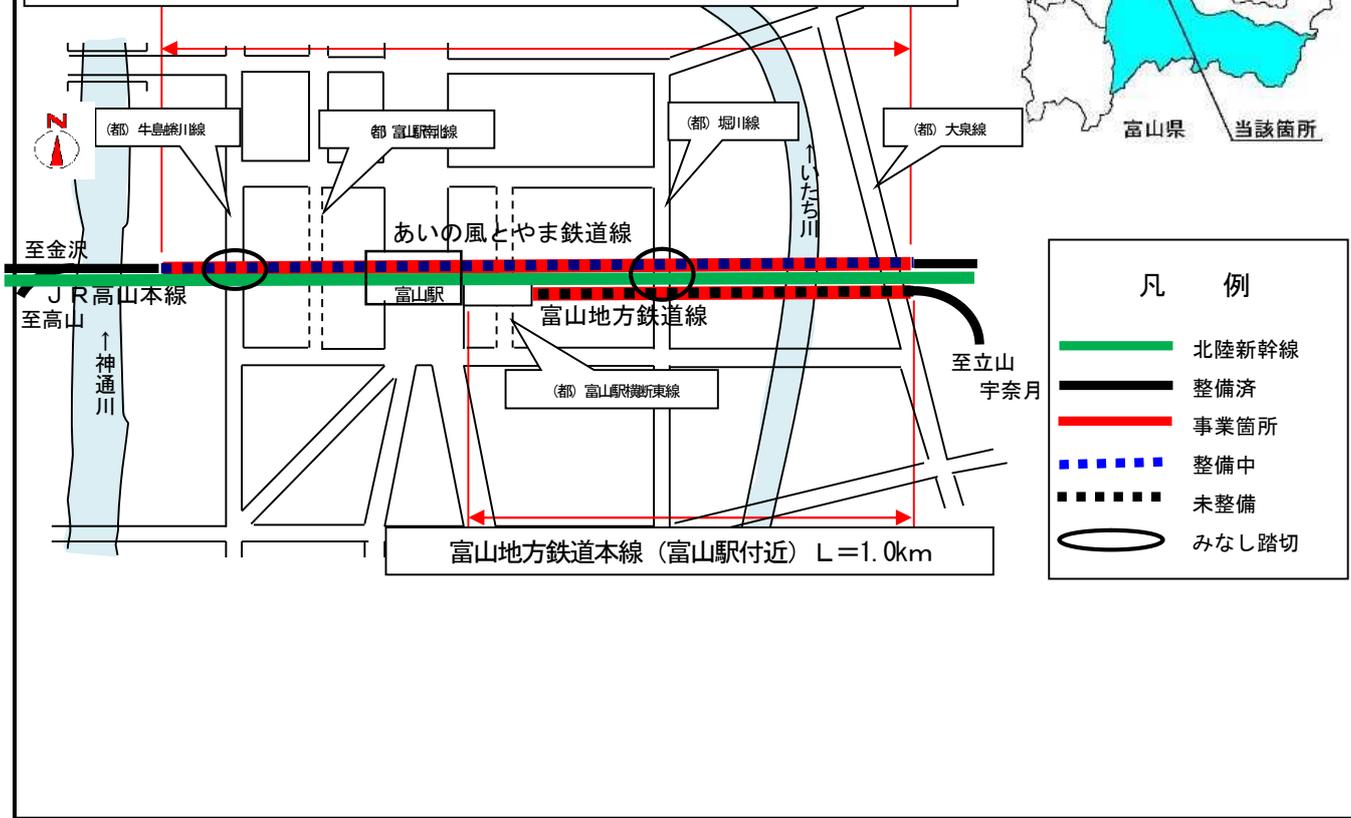


再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

担当課：都市局街路交通施設課
担当課長名：本田 武志

事業名 ：連続立体交差事業 あいの風とやま鉄道線等（富山駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	富山県
起終点 自：富山県富山市明輪町 至：富山県富山市曙町				延長 1.8km
事業概要 本事業は、あいの風とやま鉄道線、JR 高山本線及び富山地方鉄道本線の富山駅付近（1.8km）を連続立体交差化し、交差道路における渋滞を解消し、道路交通の円滑化を図るものである。				
平成17年度事業化		平成17年度都市計画決定		平成17年度用地着手
全体事業費		約421億円	事業進捗率	72%
				供用済延長 1.8km
計画交通量		2,600～15,300台/日		
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2	総費用 (残事業)/事業全体 109/456億円 事業費：108/455億円 維持管理費：0.7/0.7億円	総便益 (残事業)/事業全体 538/538億円 走行時間短縮便益：507/507億円 走行経費減少便益：29/29億円 交通事故減少便益：7/7億円	基準年 平成30年
	(残事業) 5.0			
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=1.04～1.3（交通量 ±10%） 事業費：B/C=1.2～1.2（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=1.1～1.3（事業期間 ±20%） (残事業) 交通量：B/C=4.4～5.4（交通量 ±10%） 事業費：B/C=4.5～5.5（事業費 ±10%） 事業期間：B/C=4.5～5.3（事業期間 ±20%）				
事業の効果等 ・交通円滑化の推進（鉄道と交差道路の整備などの都市基盤性による交通の円滑化） ・中心市街地の活性化（富山駅前広場等の中心市街地での都市基盤の整備） ・その他（鉄道により一体的発展が阻害されている地区を解消）				
関係する地方公共団体等の意見 ・富山県民新総合計画（2018～2026）で、富山駅周辺の南北一体化を図ること、第2次富山市総合計画（2017～2026）で富山駅周辺の南北一体的なまちづくりの推進を図るものとして、富山駅付近連続立体交差事業が位置付けられているとともに、富山県と富山市より本事業の早期実現の要望を受けている。				
事業評価監視委員会の意見 ・－				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・北陸新幹線が開業（H27.3） ・桜町一丁目4番地区市街地再開発事業が完成（H30.4） ・あいの風とやま鉄道富山駅高架化完成（H31.3）				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・平成30年度末よりあいの風鉄道仮線を撤去 ・令和元年度11月に富山地方鉄道本線の都市計画事業認可 ・今後は、交差道路である（都）牛島蛭川線の拡幅工事を実施し、富山地铁本線の高架化後に（都）堀川線の拡幅工事を実施				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 ・－				
施設の構造や工法の変更等 ・資材を有効活用し、コスト縮減に努める。				
対応方針		事業継続		
対応方針決定の理由 あいの風鉄道線の高架化に伴い、路面電車の南北接続事業による利便性の向上、自由通路の整備による歩行環境の改善、高架下空間の賑わいの創出など、南北一体的なまちづくりに寄与する事業効果を発現している。 今後は、富山地铁本線の高架化により更なる事業効果の発現のため、事業継続が必要となる。				
事業概要図				

あいの風とやま鉄道等（富山駅付近）L=約1.8km
 (H27.4：あいの風とやま鉄道線上り線、JR高山本線高架供用)
 (H31.3：あいの風とやま鉄道線下り線高架供用)



凡 例	
	北陸新幹線
	整備済
	事業箇所
	整備中
	未整備
	みなし踏切

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。